No.42

長野県看護大学学報

書道パフォーマンスによる作品をバックに全員で記念撮影

新入生オリエンテーション

初日、先輩の在校生と教員も参加した「何でも話してみよう」

新入生オリエンテーション合宿は、これまで宿泊合宿形式で行っていましたが、距離も遠くその分準備も大変で在校生も参加できない事情を考え、今年度は大学敷地内で実施することになりました。従来行ってきた2日間のプログラムのうち「ウォーミングアップ」、「オリエンテーリング」、「何でも話してみよう」には教員や在学生に多数参加してもらうことにしました。また、移動しないことで工面できた時間を使い、2日間にわたって22団体による「サークル紹介」を、2日目には「大学歌の練習」を新たに加えました。4月7・8日の両日とも、新入生が学内を元気一杯に走り回り、事故もなく予定したプログラムを消化できました。今年初めて行うことも多々ありましたが、教職員と在学生が一緒に新入生を歓迎できる体制ができました。昼食を準備してくれた生協のご協力にも感謝です。来年度も教職員、在学生が一体となって新入生を迎えたいと考えています。

岡田　実（学生委員長）

在校生多数の参加は新・旧学生自治会役員の活躍のたまもの（左から2番目が小林里香さん）

今年度の新入生オリエンテーションは、学校の敷地内を活用して教員や学生とたくさん関われるようにと、初めて学校で行われました。自治会や各サークル長、学生スタッフはオリエンテーリング・サークル発表・食堂準備などに関わらせていただきました。年明けから準備をしていき、話し合いを重ね、当日は慌ただしく時間が過ぎていきましたが、先生方のお力も頂き、新入生の笑顔を見ることができてとても嬉しかったです。

小林里香さん（前学生自治会長）

平成28年度新入生紹介

今年度は学部生85名、大学院博士前期課程６名、博士後期課程1名を迎えました。新入生からいただいたメッセージを紹介致します。

左が山崎冴織さん

入学当初は、一人暮らしや勉強において不安なこともありましたが、現在は、豊かな自然と充実した設備の中で、楽しく毎日を過ごしています。また、たくさんのサークルがあり、様々なことに関心を広げることが出来ました。これから、立派な看護師となれるよう、同じ目標を持つ仲間と励まし合いながら頑張っていきたいです。

山崎冴織さん（看護学部1年生）

私は、老年看護学分野の専門看護師になりたいと思い、大学院に進学しました。入学してから2ヶ月が過ぎました。限られた時間の中で勉強する時間を調整していく難しさを感じていますが、久しぶりのチャレンジにわくわくしています。日々、家族や支えてくれる人達に感謝し、一歩一歩、前に進んでいきたいと思います。

青木美香さん
（大学院看護学研究科博士前期課程1年生）

入学後の2ヶ月間は、駒ヶ根の見慣れた風景がなんだかとても新鮮に感じられた日々でした。この大学には優しく穏やかな学生が多く、とても居心地が良いです。勉強の環境も整っており、試験前には皆で集まって勉強をしたり励ましあったりと、仲間内での刺激が沢山あって充実しています。支えてくださる全ての皆さんに感謝しつつ、仲間と共に立派な医療従事者を目指していきます。

中川　航さん（看護学部１年生）

スタートアップセミナーについて

大学生になると、それまでの高校生の時の勉強の量や質が変わるだけでなく、生活スタイルも大きく変化します。本学では1995年の開学当初から、大学生活への移行が円滑に進むようにと2日間の「新入生オリエンテーション合宿」を行ってきました。大学生活１年目の学修支援を充実させるために、2016年度から「スタートアップセミナー」を開始しました。

内容は、大学での学習方法に関する基礎的知識の講義、学習の助けとなる情報の調べ方の講義と演習を前半に行い、後半は6～7人のグループに分かれてグループ活動になります。グループ活動は、1～2名の教員が支援担当として関わりますが、グループで探索テーマを決めて情報取集し分析・検討に取り組みます。学生のみなさんには、大学での勉強はおもしろそうだ！と感じてもらえたらよいと思っています。

安田貴恵子（教務委員長）

グループ活動の様子

学生活動報告

写真サークル

熊谷佳奈さん（写真サークル長）

左から2番目が熊谷佳奈さん

こんにちは！写真サークルでは、景色がきれいなところに行ってみんなで写真を撮っています。昨年は木曽へ、今年は喬木村・豊丘村へ撮りに行きました。また、鈴風祭では写真を展示します！ぜひ見にきてください！

生協学生委員会

久保田悠菜さん（生協学生委員長）

新入生歓迎会

生協学生委員会では学生のみなさんに楽しんでいただけるような企画を運営したり、Nsの☆（ホシ）という2年の基礎看護実習Ⅱに向けた冊子を作成したりしています。Nsの☆（ホシ）は初めて実習に行く2年生の不安を少しでも励みになるよう、先生方からの激励の言葉や先輩方に伺った実習中のアドバイスを掲載しています。学生からは「励みになった」、「持ち物など役に立つことが多かった」などの声があがっており、今後も更に役立つような冊子の作成を続けたいと思っています。

学生自治会

藤本恭子さん（学生自治会長）

自治会では、学生生活をよりよいものにするため、鈴風祭をはじめとするイベントの開催やサークル活動費の補助等を行っています。先日は、自治会総会を開き、昨年度決算案、今年度予算案、さらに会則改正案について審議しました。多くの学生に予算の使い道を知ってもらい、発言の場を設けることは、今後の自治会活動の改善につながると私は考えます。今後とも自治会活動へのご理解とご協力をよろしくお願いします。

右から2番目が藤本恭子さん

学生自治会総会

退職・退任のお知らせ

昨年度、本学事務局の嘉仁康範さんが定年退職されました。また、基礎看護学分野の教授として本学の災害看護学の教育に携わって下さいました今井家子先生が3年間の任期をもって退任されました。清水学長と今井先生からのメッセージをあわせて紹介致します。

嘉仁さんありがとうございました

看護大学で5年間、大学・宿舎などの施設管理を担当いただきました。施設は開学から20年が経過していて、ここかしこにガタがきています。心の中で一番ひやひやしていたと思います。おかげ様で何とか大きなトラブルなく過ごせました。普段の仕事ぶりは、口数が少ないのですが、しっかりと仕事をしていただきました。「休みの日は孫の世話で疲れる」と話していましたが、自分と同い年なのに、お孫さんがいるなんて羨ましい限りでした。定年退職を迎えられましたが、まだまだお元気な様子、新しい職場でのご活躍祈念しております。

清水嘉子（学長）

今井先生からのメッセージ　－本学学生の防災意識・備蓄－

2014年神城地震 小谷村の避難所

本学の4年生が卒業研究で、学生の防災意識・準備について研究してくれました。その結果、災害に対する備えが必要と思いつつも、備蓄していない学生が大半を占めることがわかりました。防災意識が高いと言われる太平洋沿いから来ている学生でも「実家では備蓄しているが・・・」という結果でした。一般の方々は、災害の時に看護職者は働いてくれると思っています。私たちはまず自分を守り近隣の方々の援助ができるよう最低限の備蓄はしておきたいものです。

今井家子（元基礎看護学分野教授）

新任教職員紹介

今年度４月に、10名の教職員が着任致しました。どうぞよろしくお願い致します。教職員を代表して、事務局長からご挨拶させていただきます。

平成７年のスケジュール帳に、６月１日看護大学開学式とあります。当時､医務課に在席していました。開学から21年、本学の卒業生・修了生は1,700人を超え、各地で活躍されています。事務局では、学生生活の充実と、より地域に開かれた大学づくりに向け取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いします。

小口由美（事務局長）

後列:左から、小出誠治（総務課主任）、竹澤隆幸（総務課課長補佐）、米窪伸一郎（就職支援員）、安東由佳子（成人看護学分野教授）、小野塚元子（地域・在宅看護学分野講師）
前列:左から、堀内みちよ（行政嘱託員）、荒巻詩織（学生支援員）、栗岡真理子（教務課主事）、清水嘉子（学長）、小口由美（事務局長）、伊藤祐紀子（基礎看護学分野教授）

学生・教職員から本の紹介

ここでは、本学の学生や教職員が、それぞれ好きな本を皆さんに紹介致します。

看護学部2年生
脇坂思緩さん

「君の膵臓をたべたい」 住野よる

人と関わることを避けてきた僕はある日偶然にも明るく活発なクラスメイトの女の子が死に至る病に侵されていることを知ってしまいます。秘密を共有する正反対の2人にはそれぞれの魅力があり、それぞれの生き方にお互いが惹かれあいます。惹かれあっていく2人の結末は予想出来ない展開に。またインパクトのあるタイトルで手に取るのに勇気が入りますが、正反対の2人が描かれていることから共感しやすく、読後はこのタイトルの謎が解け、感動する作品です。

基礎医学・疾病学分野助教
島袋 梢

「命の格差は止められるか ―ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業―」 イチロー・カワチ

世界一番の長寿国だった日本の寿命に陰りが見えてきました。その一つの理由として、広がりつつある格差の影響と人間関係の崩壊等を指摘している本書。日本出身でハーバード大学にて教鞭をとる著者が、日本の長寿の秘密を科学的に調査する中で、「人々の絆」や「隔たりの無い社会」の重要性が科学的データと共に浮かび上がってきます。分かりやすく短くまとまっていますので、これから社会を担う若い方に一度読んでもらいたい一冊です。

事務局次長
石坂秀彦

「戦国武将の城」 一個人編集部

今は見ることのできない信長の安土城、秀吉の大阪城、家康の江戸城が超リアルなCGで甦り、天下人の豪華絢爛な城の様子や人気戦国武将たちの居城、国宝松本城や姫路城など現存する名城について、写真と解説、当時のエピソードなどが添えられていて、戦国ロマンを感じられる、歴女必読？の一冊です。この本にも出てくる名城：熊本城、先の震災で無残な姿になってしまいましたが、1日も早い復興を願ってやみません。

フォトかんごだい

平成27年12月～平成28年5月

12月24日
生協学生委員会・学生自治会クリスマス会

1月29日
平成27年度認定看護師教育課程修了式

2月5日　学生自治会4年生の国試を応援する会

2月6日　平成27年度第2回公開講座「女性の健康ー女性ホルモンから腸内フローラへー」

2月16日　修士論文発表会

3月2日　看護実践国際研究センター看護地域貢献研究部門高齢者水中運動講座プロジェクト平成27年度骨密度測定大会

3月11日
第18回卒業記念植樹

3月12日
平成27年度卒業式・修了式

4月4日
平成28年度入学式

4月4日
生協学生委員会お友達企画

5月25日
長野県看護大学生活協同組合
第18回通常総会

大学の活動紹介

高等教育コンソーシアム信州県内9大学連続市民セミナー「健康長寿を考える」

高等教育コンソーシアム信州運営委員長　喬 炎

屋良朝彦准教授

このセミナーは昨年度から高等教育コンソーシアム信州が主催で、健康で長生きすることをテーマに、加盟された県内９大学が輪番で講演する形をとりました。本学から昨年12月に「すこやかな老後を迎えるための哲学対話」（哲学・倫理学分野　屋良朝彦准教授）、今年1月に「温泉効用の新発見」（基礎医学・疾病学分野　喬 炎）を講演し、異なる視点から如何に健康で長生きすることの考え方を県内各会場に聴講された多数の市民や教育関係者に発信しました。

看護ユニフィケーション研修会

実習委員長　内田雅代

平成28年2月に、ユニフィケーション協定を締結した4施設の看護師23名と本学教員37名が集い「患者の在宅療養生活を支える看護実践－多職種協働の視点から考える－」を開催しました。4人の専門看護師、認定看護師の実践報告の後、参加者が4つのグループに分かれ話し合いました。教員は臨床現場での取り組みを学び、臨床看護師も実習における多職種協働に関する指導への工夫等を話し合う中で、相互に今後の学生指導の視点を深めることができました。

実践報告

グループワーク

看護実践国際研究センターの見直し

高齢者水中運動講座プロジェクト

看護実践国際研究センター長　清水嘉子

創立20周年を期に看護実践国際研究センターの見直しを行い、看護における教育・研究・臨床を統合する活動の拠点としての機能を強化しました。今年度より「看護地域貢献活動研究部門」、「国際看護・災害看護活動研究部門」、「学外機関連携部門」、「認定看護師教育部門」、「キャリア形成支援部門」とし、全ての教員がセンターの活動に参画する体制をとりました。活動を推進することによって更なる地域社会への貢献と大学の発展を目指します。

INFORMATION

第21回鈴風祭

『一祭合祭～溢れる笑顔、ここにあり～』

日　時　9月10(土)、11日(日)10:00～16:00

鈴風祭実行委員会の皆さん（前列左から3番目が、実行委員長の関島文香さん）

長野県看護大学大学院看護学研究科入学試験

平成29年度入試の募集人員・日程

1次試験

試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	H28. 9. 28(水) ～ H28. 10. 5(水)	
選抜日	H28. 10. 15(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ※英語・面接	英語・口述試験
合格発表	H28. 10. 20(木)	

2次試験（1次試験で定員に達しない場合に実施）

試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	H29. 1. 5(木) ～ H29. 1. 12(木)	
選抜日	H29. 1. 21(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ※英語・面接	英語・口述試験
合格発表	H29. 1. 26(木)	

募集人員 ： 前期課程16名, 後期課程４名

専門学校・短期大学を卒業した方も、事前審査により出願できます

※論文コースの特別選抜とCNSコースでは英語を免除します

特別選抜には施設長による推薦と5年以上の臨床経験が必要です

Nagano College of Nursing
長野県看護大学
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694　TEL 0265−81−5100　http://www.nagano-nurs.ac.jp/

長野県看護大学学報
No.42（平成28年7月）
編集･発行
長野県看護大学広報･交流委員会

2016.7
長野県看護大学
Nagano College of Nursing, Graduate School

大学院だより vol.2

看護海外研修の概要

看護海外研修は、2004年3月に本学名誉教授 Anne J. Davis 先生、小西恵美子先生の橋渡しによりカリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）との間で始まりました。2005年2月から、カリフォルニア大学（USF）も研修先となりました。2016年3月からは、UCSF にかわってサミュエル･メリット大学（SMU）が研修先になりました。2005年度より大学院の科目となっています。看護海外研修は13年間継続され、延べ69名が参加してアメリカの医療や看護教育の現状、高度実践看護師の役割と実際などを学んできました。

渡辺みどり（大学院看護学研究科長）

Samuel Merritt University訪問について

Samuel Merritt University（以下 SMU）は 3 つのキャンパスを持つ中規模大学で、今回はサンフランシスコから車で 30 分程のペニンシュラキャンパスを訪問しました。SMU の教員で私の友人である Diana Jennings 教授とのつながりもあり、今回の訪問が実現しました。多くの教員や学生から温かい歓迎を受け、SMU の概要や老年看護のパネルディスカッション、シミュレーションセンター見学や学内ツアー等、有意義な時間を過ごすことができました。

演習中の学生達と

SMU内のSimulation lab見学

田中真木（基礎看護学分野助教）

看護海外研修へ参加した感想

2015年度看護海外研修に参加させて頂いて最も感じたことは、各個人の多様性を受け入れ、失敗を恐れずに何事にも熱意をもって Challenge し続け、それを Enjoy することの大切さです。現地にて英語でのプレゼンテーションや多くの教職員・学生と交流をさせて頂き、看護教育の実情を目の当たりにすることで、多くの新たな知見や示唆を得ることが出来ました。また、本学名誉教授である Anne J. Davis 先生を表敬訪問させて頂いたことも、大変に貴重な機会でした。本研修で学び得た多くのことを今後の糧としながら、日々の学業に励んでいきたいです。

牛山陽介さん（大学院看護学研究科博士前期課程2年生）

牛山陽介さんプレゼン風景

USFキャンパスにて
（一番左が渡辺みどり研究科長、左から3番目が田中真木助教）

大学院生の紹介

父と共に

大学院には、「長期履修制度」があります。卒業まで最長４年間、この制度を利用して仕事・子育て・介護などをしながら学ぶ社会人が多々在籍しています。私もその内の一人で、祖母と父の在宅介護をしていました。家族介護者にとって介護は 24 時間 365 日続くものですが、その生活の中で自分にできることを見つけたい一心で学び始めました。周囲にご迷惑をおかけする日もありますが、看護大学だからこそ理解して下さる方もいます。何らかの事情で進学を躊躇している方は、希望する領域の先生に一度ご相談してみてはいかがでしょうか？

川手弓枝さん（大学院看護学研究科博士前期課程2年生）

日本の国際協力

この3月に学生を連れてインドネシアに行きました。ある日地方のヘルスポストを訪ねた時、愛育会のようなボランティアが、乳児の体重計測を布にくるみばね秤で行っており、日本の昭和初期を彷彿させる光景を見ました。そして、全員の子供が母子健康手帳を活用していました。これは10年以上かけて行われた日本の支援の成果です。その内容はインドネシアの文化的要素が多く入ったものでしたが、母子手帳がインドネシアの隅々で活用されている事を知り、持続発展する支援が難しい中、そのあり方を改めて顧みた旅でした。

望月経子さん（大学院看護学研究科博士後期課程3年生）

教員の研究紹介

北山秋雄（里山・遠隔看護学分野教授）

＜信州諏訪「御柱祭」における里山･遠隔看護学の新機軸＞

里山看護学は大学改革の一環として、へき地に囲まれた地方小都市に立地する本学の地の利を生かした学問の創生を目指して2006年大学院博士前期課程に設立されました。今年は創設10周年にあたることから、「里山看護学（Satoyama Nursing）」の命名者として大変感慨深いです。元来、「里山」は人間の影響を受けた集落の周辺の山々を指していますが、「里山看護学」ではへき地の集落を含めた生活環境全体を指しており、自然と人間の共存関係を一体的に捉えています。

今年は長野県諏訪地方で、「数えで７年」に一度の御柱祭（正式には「式年造営御柱大祭」）が行われています。この御柱祭の歴史を紐解く中で、私は特に「いのちを頂く」神事に注目しました。神に肉を供え､共に食す。こうした「動物供犠」は“人間は殺生によって生かされている”という自然の恵みに対する感謝の意を表しています。詳細は割愛しますが、御柱祭を通して諏訪地方の人々は、里山看護学の中核概念である「自然」や「生き物」に対する畏敬の念、倫理、信頼、コミュニティの同一性（連帯、紐帯）等を暗黙裡に再確認しているのだと思います。御柱祭は諏訪地方の人々のまさに健康資源そのものと言えるのではないでしょうか。